



表紙の写真

「北口本宮富士浅間神社社殿」

富士吉田市上吉田。今から1680年ほど前、日本武尊（やまとたけるのみこと）が東征の折、大塚丘で富士山の神霊を遷した故事により、この地に祠（ほこら）を建てて祭ったのが神社の始まりといわれている。

延暦7年（788）甲斐守紀藤原（かいのかみきのとよひろ）が現在の場所に改めて神殿を造営して浅間大神を祭り、日本武尊のみを大塚丘に祭ったともいう。現在の本社殿は元和元年（1615）谷村城主、鳥居土佐守成次が再建し、貞享5年（1688）城主秋元但馬守が社殿を造修している。

昭和28年（1953）3月、桃山時代の高壮な建築物として重要文化財に指定される。秋季大祭は毎年8月26日、日本三大祭のひとつ「吉田の火祭り」として知られ、高さ3メートルほどの大たいまつが夜空をこがし、多くの観光客でにぎわいを呈する。

（写真と文：浅川 幹）

「MUH」vol.9 1996.7.1

企画／早野グループ「MUH」編集室

深沢道・矢田道生・榎林友美・久保田充一

編集／株式会社ニュースメディア甲府

三神弘・三井君男／名取秀浩・山川エミ・高山

ひとみ／赤井美佳穂

日本工業経済新聞社

印刷／有限会社オズプリンティング

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託した Matei(仲間)、Union(結束)、Harmony(調和) の頭文字からとりました。幻のムー大陸のロマンを冒険します。

フォーラム		
テーマ 旅	江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤眞佐美	2
時評		
山梨21 保坂 敏子 さん(俳人)		4
ホスト 早野 潔		
山梨の風土と蛇笏 連山に鍛えられた詩		
「雲母」500号の偉業 暮われた自然人の風格		
データ サツキとお祝遊さま		
トピックス		
消費税5%を考えてみる		10
企業ウォッチング		
(株)泉 郷 大関 修 氏		13
サークル訪問		
「てんとうむし」		14
インフォメーション		
トヨタビスタ山梨・トヨタホーム山梨・甲府通運・早野組		16
ようこそ歴史		
広瀬 元恭	上野晴朗	18
アートへのまなざし		
ボク的美術品観察日記2	山本育夫	20
トレンド		
UV カット		22
BOOK こんなところに山梨…	BOOK コーナー ブナの森を楽しむ	23
リレーエッセイ		
歴史を翔る	信藤祐仁	24
甲府通運前史を訪ねる(3)	林陽一郎	25
ユーザー訪問		
有限会社 山 久		26
作家対面		
名取 愛一さん(櫛形町)		27
ワンポイント情報		
トヨタビスタ山梨・トヨタホーム山梨		28
ときどき・FACE		
国体にアーチェリーの県代表で出場する・吉田 賢さん		29
おしゃれ 銀座 山川 / たべろ 谷 桜		30
甲州の野辺にて ④		
先人の心に還る(3) 箕輪新町のおんねりと巫女舞 志摩 阿木夫		31
コラム		
某月某日		32

旅・股旅・たび

江宮隆之

今から30年近く前の日本映画界に「市川雷蔵」という映画スターがいた。代表作は『眠狂四郎』シリーズや『忍びの者』シリーズ。『大菩薩峠』の桃竜之介は、絶品だった。他に三島由紀夫の『金閣寺』を映画化した『炎上』、島崎藤村の『破戒』など文芸大作では、演技派としての一面も披露した。

ところが、雷蔵にはまだ語るべき作品がたくさんある。『切られの与三郎』『青天小僧』などの歌舞伎作品、そして『杏樹時次郎』『悪名の銀平』といった股旅もの。中でも『ひとり狼』は、『木枯らし紋次郎』の原型であった。そして…。語りだすと雷蔵の魅力は尽くせないほどである。最近、ビデオでの「雷蔵人気」もうなぎ登りだと聞く。

さて、『ひとり狼』の主人公は、追分の伊三蔵。ニヒルで孤独な一匹狼である。手甲脚絆に道中合羽、三度笠というお馴染み「股旅スタイル」で、旅から旅への渡り鳥。というと恰好いいのだが、渡世人の旅は見かけほど恰好のいいものではなかったらしい。

例えば、渡世人が行く先々の親分の所に草鞋を脱ぐのには「チェックインタイム」があった。午後3時がリミット。この時間に遅れば、野宿ということになる。食事は台所の板の間で、しかも一膳飯は駄目。といって二膳飯は多い。そこで少し食べてからこれに足す形にする。一汁一菜だが、食べ残しは「ノー」。魚は頭と尾だけ残して自分の手拭いに包んで懐に。

就寝は、敷き布団も掛け布団もなし。一枚布団をくるくると身体に巻いて「柏餅」。長脇差は抱えて寝るのが作法。決して頭の位置などには置かない。

『ひとり狼』という映画は、それまでの「カッコいい」やぐざ映画ではなくこうしたリアルなものに仕上がりつつあった。ところで「股旅」という言葉であるが、昭和4年に小説家で戯曲作家でもあった長谷川伸が、雑誌『改造』に発表してその年のうちに舞台化された『股旅草鞋』が、語源だという。

…しかし、やはり旅は活弁員、ツアーコンダクター付きのお手軽旅行の方がいいに決まっている。

■1948年増穂町生まれ「経済記」で第13回歴史文学賞 著書に『凍てる指』『山梨人物博物館』など『白狐の人』は日本と韓国同時発売 第8回中村屋文学賞受賞

あの頃の旅、いまの旅

古屋久昭

「旅」ということばには特別の感慨を持つ。なぜか。「旅」という自覚をもって私は二十代によく旅をしたからである。いまでもその想いは消えていない。「旅行」ということばとは、きっちりと区別して、私は、宝のように「旅」ということばを心の隅にしまっている。

19歳の時、友人と二人で50ccのバイクで甲府から新潟まで往復した。21、2歳の時、サイクリングで北海道から九州まで日本列島を縦走した。これも友人を交えて実行したものである。いずれも「旅行」であって「旅」ではない。旅は一人でするものである。一人であれば、ツーリングであろうとサイクリングであろうと、私には「旅」である。

23歳の時、私の旅は始まった。最初は北陸の旅だった。ローカル線を列車やバスで何度も乗り換えて、日本海をくつついたり離れたたりした。

翌年からは日本の最北端の街、稚内が、主に私の旅の行く先となった。サイクリングの時、出会った街で、この街が無性に好きになった。

稚内には以後6回、旅をした。ヨーロッパヘスケッチ旅行に行き、帰って来て1か月後にはまた私の足は稚内に向っていた。「北へ北へ」、私を旅にせかせるフレーズである。

結婚してから旅に出ることはなくなった。旅行の類は結構多いが、「旅」を自覚しての行動はもう何年もしていない。旅への想いを忘れているわけではなく、心理的な旅を時々しては、その想いに酔ったりしているのだ。

たとえば、私はバス通勤をしているので、バスの揺れや、帰路、暮れなずむ遠くの景色を見ては旅の気分をつくる。地球儀を眺めては、見知らぬ国の見知らぬ街や土地、風土、人々を勝手に想像し、あたかもその地を旅しているかのようなつもりで紀行文を書く。「夢紀行」と題して、ある雑誌に24回にわたって連載した。フィクションの旅である。

「人生は旅である」とか、「自分探しの旅」とか人はいふ。私には、いまこのことばが妙に近しいものとなっている。

■1943年御坂町生まれ 先頃、童話集『虫らしく、花らしく』を美和堂より出版

たびたびの旅

岩崎正吾

ともかくも江宮隆之は、編集の三神弘に向かって言ったのである。すでに酔っているから声がデカイ。佐藤真佐美の広大な屋敷のみならず、市川大門町一帯に鳴りひびいたのではなかったか。「旅なんて題では書きにくいではないか」

なあ、そう思わないかと吾輩に同意を求めるが、わたしには才能があふれるほどあるから軽々しく江宮には同意しない。

江宮の抗議を尻目に、佐藤がさっさと原稿を三神に提出する。早々と書いてしまったのである。吾輩はそれを横目で見ながら、内心つぶやいた。原稿は早いばかりが能ではない。

その数日後にスナックでばったり会った古屋久昭は、いつものボーカルフュイスで原稿のことなんかおくびにも出さない。「旅」なんていう題のエッセイはチョロイもんだという顔だ。

吾輩がワープロの前で髪かき乱して、いや、髪の毛がもったいないから鼻クソなんかほじりながら思い悩むのは、よくよく考えてみるとどうも最近旅らしい旅をしていないからである。去年は沖縄へ、今年は神戸に行った。どちらも目的があつてのことで、仕事の続きという気分であつた。

旅というのは目的も義務も持たず、風景や人との偶然の出会いを楽しむものだろう。そんな旅を最後にしたのは、いつのことだろうか。

そう考えていたら、突然に気がついたことがある。わたしは小さな旅を、頻りにくり返している。金と時間がないからいつも日帰りだが、車を飛ばして見知らぬ風景の中に身を置くことがある。御岳や奥秩父の山奥、少し遠くだと佐久や諏訪あたりか。

行ったところで目的はない。ただ、見知らぬ土地で、初めての景色を眺めるだけである。町ならば喫茶店にでも入り、本屋などをのぞく。山奥ならば何もないから、山や空や野の花を眺め、のびのびと立ち小憩でもして帰ってくる。

そう、貧しくはあるが、これがわたしの本質的な旅なのである。

■1944年生まれ ミステリー作家 地方出版社「山梨ふるさと文庫」代表 長編小説に『闇かがやく島へ』(角川文庫)『真説本能寺・信長殺すべし』(講談社)など最近刊のエッセイ集『地方出版・地方作家・事始』(山梨ふるさと文庫)を刊行



……は道連れ

佐藤真佐美

日立ちたがり屋のぼくは、欧州滞在中もほとんど作務衣と草履で通した。このスタイル、バーではいいこともあったが、あるとき列車の中で大いに困惑した。あちらでは国境で必ずパスポートの提示を求められる。フランスからスイスへ入る時は問題なかったが、スイスからイタリアへ抜ける途中、警官がぼくの服装とパスポートを見て何やらわめいた。

「おまえ、赤軍派の一味と疑われているよ」と、ジャンはにやにや。この男、フランス人のくせにバリで逃子になるなど、いかげんな道連れなのだが、バッグの中からウイスキーの瓶を出し、まかせておけと目配せした。

「一杯どうです」「職務中だからだめだ」「そういわずに」

身振りでそうとわかる会話があつて、たちまち警官とジャンは瓶を一本空っぽにし、ぐでぐでんになった。そのうち警官は、ぼくの顔をみて何やらイタリア語でまくしたて、両の眉毛を吊り上げ「トキョー」を連発した。「おれもいつか東京へ行つて、眉の吊り上がったミステリアスな女性と遊んでみたい」そう言っているのだという。こんなやろうに日本の女性を自由にさせてたまるか。そんならおれもと、「おい、お前に妹はいるかと聞いてくれ」。答えを聞いてはぼくは途中下車したくなった。

「この次紹介する。きみなら妹も、きっと気に入るよ」

ジャンと別れてベルギー、オランダ、ドイツと道連れ無しで回り、帰国する日にケルンの駅から空港まで、車中のコンパートメントは、日に焼けた屈強そうな男性と二人きり。彼は自分を指差し、しきりにユーゴスラビアを連発した。ドイツ語は皆目判らないのだが、憶測するに「私はユーゴスラビアから働きにきていて、五年ぶりに帰国する」と言っているらしい。作務衣と草履姿のぼくを見てヤーパン(日本人)ヤーパンと言っている。

ぼくらは空港までの二時間あまりを、目が合うとにやりと微笑み、そのたびにお互いの煙草をすすめあつて過ごした。言葉の通じぬ道連れは、のどがひりひりするものである。

■1939年北海道生まれ 日本児童文学者協会 日本児童文学協会会員 著書に『怪奇!大東京妖怪ゾーン』(ポプラ社)『文ちゃんのはるかな知床』(北海道新聞社)近著に『シレットのシルバー』(草葉社)など

人間回復宣言
俳句の風土山梨
現代生活と俳句のすすめ

ゲスト

ほ さか
保坂
俳 人

としこ
敏子さん

ホスト

はやの きよし
早野 潔
早野組社長



保坂 敏子さん

■保坂 敏子

俳人 昭和23年5月5日生まれ 白根町 昭和44年「雲母」入会 昭和64年「雲母」同人 平成5年「白露」入会 「白露」編集同人 句集「芽山椒」アンソロジー「現代俳句の新鋭」「現代俳句の精鋭」

山梨の風土と蛇笏
連山に鍛えられた詩

早野 山梨はたいへん俳句の盛んなところですが、全国的に見て、いかがな状況でしょうか。

保坂 私が所属していますのは「白露」ですが、飯田蛇笏、龍太の「雲母」の系譜の上に、俳句をいたす方は大勢いらっしゃいます。

山梨の俳句が全国でも特別な位置をもつようになったのは、やはり蛇笏の存在の大きさでしょうか。それまでは、高名な俳人は東京へ出て仕事をしました。ところが蛇笏は故郷に帰り、ここに根をおろして独自の境地をつくられました。

正岡子規の出身地である愛媛県松山も、同様に、広く俳句が浸透している土地柄です。

早野 蛇笏は明治18年に境川で生まれました。早稲田大学に進学し、文学に親しみ、23歳で高浜虚子の門下に入りますね。そして24歳の時、いっさいの学術を捨て、所蔵の書籍を売って故郷に帰ります。

自然人とも評されますが、人間性も、尊敬に値する素晴らしいお人柄

だったと聞いております。人と作品とが一致していた、ということでしょうねえ。

保坂 私の住まいは白根町ですが、蛇笏の肉声を聞いたという方がいらっしゃいます。荊崎中学時代、蛇笏が講演にいらしたそうです。生徒たちが騒々しかったので、叱られたそうです。どんなお声だったのでしょうかね。

そんな昔話を聞かされるたびに嫉妬してしまいます。蛇笏の肉声を聞いていたら、また、叱っていただけたのなら、私ももう少しきちんとした仕事ができたららうに、と。

くろがねの秋の風鈴鳴りにけり
芋の露連山影を正(ただし)うす
冬滝のきけば相つぐこだまかな
蛇笏

「雲母」500号の偉業
慕われた自然人の風格

早野 蛇笏を知っている人は、どんなささいなことでも、人生の記念のように大事にしています。生活ばかりではない、人生というものを考

えた方なのだと思います。

「雲母」を発行し、500号記念号を出し、記念大会を甲府と東京で開催したのは、昭和34年、蛇笏74歳の時ですね。お亡くなりになったのは77歳ですが、郷土の人たちに、多くのことをもたらされましたね。

保坂 文献などを読みますと、たいへんご自身に厳しい方でした。ご家族のご不幸なども度重なったので

すが、そのなかであって、ご自身を突き放し、冷静にものを見詰めた方でした。

早野 保坂さんが俳句をされるようになったのは、もちろん蛇笏亡き後ですね。

保坂 はい。蛇笏7回忌の折りに、甲府で蛇笏展がありました。その時、蛇笏の句に目覚めさせられたのを覚えてます。



早野 潔

早野 それから「雲母」で修業されたわけですね。

保坂 「雲母」入会は昭和44年のことでした。

椿落つ一生言はぬこともあり
油蟬鳴けば鳴くほどかるくなる
鯉の死のもののみごとに凍の中
敏子

蛇笏に師事、早野四方 体験を尊んだ句作

保坂 早野社長のお父様も、俳句をおやりになっていたと伺っています。

早野 はい。父の生まれは大正元年です。甲府中学の頃から俳句をはじめ、蛇笏を師と仰ぎ、やはり「雲母」に所属していました。蛇笏に見い出され、早野四方を賜り、「雲母」の編集委員として、甲府から境川村まで自転車通っていたそうです。しかし、昭和37年10月に蛇笏が他界された後は、俳壇からきっぱりと身を引いたといえます。

保坂 いさぎよいですね。蛇笏、四方の緊張した人間関係が、そして



師弟のあり方が心を打ちますね。

その頃の俳句の修業というのは、どんなものだったのでしょうか。

早野 父、四方は、師のおっしゃることは何でもしたといえます。常に努力だとも言っていました。俳句をよく理解するために、動植物に親しみ、季節の実感を得るための生き方をしましたね。

たとえば、ウグイスやメジロを飼うという生活をしました。釣りは、

川、湖、海へも出かけて自然と親しみました。そして、サツキ、バラの栽培。堆肥作りからしました。高価なものを買ったわけではありません。父の遺してくれたサツキは今でも毎年、立派な花を咲かせてくれますが、このサツキは、正の木祭りの植木市で求めた一鉢200円ほどの鉢植えがはじまりでした。

保坂 それは並々ならないことですね。言葉を大切にしていっしょ



る。暮らしを大切にしていっしょに暮らす。おのずから俳句の理解も深まりますね。人を、自然を見る目が鍛えられていきます。俳句に実感がこもってきます。

山に入って鳥の観察 失われた学びの基本

保坂 学ぶという姿勢においては、その頃と現代では、たいへんな隔たりがありますね。ことに、今日のよ

うな情報化社会、また、メカニク的な日常生活のなかでは、個々の人間性が希薄になりがちです。一人ひとりの声が目立たないから。

早野 それに、性急ですね。学ぼうとすると、すぐに学校へ行って教えてもらいたがる。自分に自信がもてないから、みんながいる方へ集まって、安心したがる。最近、立派な父親になるための学校もあるそうです。核家族という時代傾向もある

のでしょうか、いろいろな教育問題も起きているせいもあるでしょう。しかし、そこには自分の発見や、創意というものがありませんね。

保坂 メジロを追って、山に入っていかなければいけないわけですね。

早野 鳥もちを持って、山に出かけるんです。

保坂 山の季節も敏感にわかりますね。山道では思いがけない出会いや発見もあったでしょうね。

早野 メジロの集団のなかでも、1羽の優秀なメジロがいることも、その習性も見分けがつくようになって言っていました。

保坂 17文字のなかに、そうした世界がこめられていくわけですね。俳句の味わうべきところだと思います。俳句を作ることと、生きることが、一貫しています。

そうした生き方が「雲母」の1冊、1冊に刻まれて、それは後の世代に示唆を与え続けていくと思います。

月代に山雲ふかみ神無月
枯れかけて露もとどめぬ芒かな
軒の梅秋のごときに月を得し

四方



早野 四方の短冊は、いつも私の机の前にあります。私は俳句はいたしません、いつも向かい合っています。

おん耳の聞こえておわす寝釈迦かな
四方

俳句入門は生活感覚
挨拶のできる人なら

早野 いま、俳句ブームというのだそうですね。文化に親しむ機会も増えています。

保坂 俳句ブームは歓迎ですが、学ぼうとすると、これまた、カルチャーセンターなどの教室に通うことをまず考えてしまいます。勿論、否定するものではありませんが、早く上達しようという、そうした結果を急いでしまいがちです。勉強も、一人ひとりの個別のものになってしまいます。しかし俳句には、試験なんかありません。ただ一つの、都合のいい答というものもありません。

俳句の修業の機会は、従来、句会です。句をつくり、鑑賞し合う場です。互いに批評し合うことで、人を

知り、言葉の奥行きを知っていきます。それは、さまざまな感性の発見や、共感となり、洗練されていきます。

早野 企業もそうだと思う。企業は組織ですが、ただの人の集まりではいけない。共通意識や、共通の文化で結ばれた場でなければなりませんね。人が育っていく環境、人が成熟していく環境でありたいですね。

保坂 大切なのは、その、場の意識でしょうね。句会は、そのことを教えてくれます。

早野 このMUHの読者の皆さんにも、俳句に親んでもらいたいのですが、どんなことからはじめたらよいのでしょうか。

五七五という形式、季語を含むという約束事がありますね。つまり、春夏秋冬の季節を表すための四季の語ですね。

保坂 はい。菜の花は、春ですね。
金魚は、夏ですね。

蛇笏は、俳句は誰にでもできるとおっしゃっています。挨拶のできる人ならできる、そう、おっしゃっています。

たとえば、「おはようございます、

今日は暑いですね」「今晩は、ちょっと寒くなりましたね」というふうな、ほんとうになに気ない普段の挨拶や、会話ができれば、誰にでも俳句はつくれるというのです。

早野 それはまた、よいお話ですね。

保坂 まったく、そのとおりだと
うなずいてしまいます。その挨拶の
なかの、暑いですね、寒くなりました
ねというところに、すでに季語が
ありますよね。

早野 含蓄のある教えですね。

保坂 俳句は誰のものでもありません。誰にもつくれます。それから、よい句を鑑賞することでしょうか。感動する心をもつこと、といってもいいでしょう。そのことが、おのずから自分の生活を大切にし、ものをよく見るという態度を育んでくれるのだと思います。

早野 そこに、人間のいる場が形成されていくのでしょうか。いきいきとした生活があり、感動ある暮らしが実感できる独自の場ですね。地域社会も、企業も、そうした場でありたいですね。

〔構成：三神 弘〕

エッセイ

サツキとお釈迦さま

保坂 敏子

封鎖のあと急に話がまとまって、早野さんのお宅のサツキを見せていただくことになった。正確には早野さんのお母様のといった方がいいかも知れない。「真心と確かな技術」という看板を掲げたスカイブルーの早野さんの会社の前を通るとぶつかるのがお宅。車から降り立つと同時に「ここがお袋の家、その向うが私の家」と早野さんが歯切れのいい声で説明してくれた。

門を入って散歩のところで、ちらほらと、漏斗状の紅紫色の花をつけた植込を眺めながら「これが今から咲くのですかねえ」と呟いていた所、それはフツジ。サツキはこちらですよ」と早野さんが笑いながら手招いた。「あ、あしまつなな」と思った。因みにサツキも同じフツジ科なのだが大きな違いは、花の咲き終ったあとで新芽が伸びるのがフツジ。新芽が伸び切ってから開花するのサツキ。花開くもサツキはその名のとおりに四月五月、つまり六月の花である。漢字で杜鵑花を書くところは、ホトトギスがしのび音をもらすころに咲く花だからだそうだ。

そういうことが優勢と弱の中でありながら、日本の地は万物を見せられるともうたためた。これなら然の子と少しも変わらない。あの頃、過湿花が咲き終ったあとのフツジだったのだとわかって冷汗が出た。

早野さんはしきりに夢見山、夢見山と言っておられたけれど、愛宕山のことだろうか。その山を背景に、どこまでが敷地かわからないような広大な庭の随所にサツキが植えられていて、芝生の上の側には数えきれないサツキの盆栽が並んでいる。これなら観光コースになったのも無理はないなと思った。毎日大型バスが入って来て大変だったそうだ。「みなおやじとお袋が作ったんですよ。正の木さんから買って来たものをさし芽をしてだんだん増やしていった。おやじは何でもしましたよ。俳句もそうだが、釣もやった。溪流か

ら國から海まですべてやった鳥が好きで、白も飼ってましたね。御坂まで目白を捕りに行くんですよ。私がどうやって捕るんだろうという顔を見ると「トリモチでね」と目をキラキラさせて言った。案外早野さんがやっていたのかもわからない。

「小学生や中学生の句は、それはそれでいいんだ。人を感動させるいい句を作るには、何でも知っていなきゃいけない。そうなんだぞ深澤くん」と同席していた早野さんの会社の若い男性に向って論ずるように早野さんは言われたが、何とも耳の痛い話だ。「努力を要す」という印をベタッと押されたような気がして、なまけ者の私は身の縮まる思いがした。

早野さんのお父様は俳号を四方と書いて、去母の熱心な俳句の信者であつたようだ。蛇笏の信奉者と云つた方がいかにも知れない。昭和七年雲母社から刊行された蛇笏の第一句集「山嵐集」の編纂もされたという。蛇笏が亡くなったとたん、ブツブツ俳句をよしてしまつたそうだ。

対談の中で「保坂さん、この句はどうです」と言つて早野さんは、「おん耳の聞こえておわすお祝運かな」「おん耳の聞こえておわすお祝運かな」と二度ほどゆつくりと暗誦してくれた。あつと春風がよぎつたような気がした。

私はこころの中で「お祝運かな、お祝運かな」とつぶやきながら、何か不思議な思いにとらわれていた。「お祝運さまは季節ではないけれど、この句のやわらかいリズム感には春の季節が十分にある。それに、おん耳の聞こえておわすというのだから涅槃會のお祝運さまではないかな」と句の印象をしばらく頭の中で反すうしていると、私が句の良し悪しをはつきり言わないものだから、早野さんが、「これはおやじが十五才の時の句でね。私はこの句を好きなんですよ。いい句だと思うんだがなあ」と最後はつぶやくように言つた。

十五才の時の句と聞いて思い出したのは、
もつ花におつる涙や墓まあり
の句である。これは明治二十七年以前として「山嵐集」に収められている。蛇笏の九才のころの作だといわれている。祖父の死に最も近いころである。墓参りに用意した小菊などの盆の花に思わずこぼれ落ちた涙が露のよう光っている。そんな情景であらう。

蛇笏といひ四方さんといひむかしの人とは随分と老成した句を作ったものだ。何度か修羅場をくぐった果てにやすらかに浄土を見ていような顔をした句ではないか。蛇笏と四方さんの生きた時代に思いを馳せながら、人の早熟した詩質は、山嵐の風土にどっしりと根を下ろした生き方にあつたのではないかと考えた。そして、蛇笏も四方さんも、俳句の愉しさを十分身をもって知っていた俳人ではなかつたかと。

早野さんが父四方さんを語るときの、まぶしいようなはるかなまなざしに、あと、蛇笏龍太の姿を重ね合わせながら、子が父をこんな風に語ることでできる関係をうらやましく思った。四方さんの

おん耳の聞こえておわすお釈迦かな
は
おん耳の聞こえておわすお釈迦かな
の聞き違いだったとわかつたのは対談の終ったあとのこと。聞こえていなかったのは私の耳の方だ。お釈迦さまもきっと苦笑いしているにちがいない。

サツキは花よりも、花の終つたあとから花の咲くまでの手入れがたいへんな実によつかに花だといふ。早野さんに杜訓を聞くのを忘れたが、見えないところをきちつとやるサツキ作りが確かな技術に生かされているのだらう。婦りに昭和三十年代の「雲母」をいただいて来た。大きな宿題を出されたような気がした。

これからどうなるのか
私たちの暮らしに与える影響は…

消費税5%を考えてみる

「このままでは国が減る」。先頃刊行された「中央公論」6月号で新党さきがけの武村正義代表（前蔵相）が冒頭のタイトルの財政再建の私案を発表した。国と地方を合わせて10兆円以上の削減をすることや、国会議員の歳費のカットなどを盛り込んだもので、この中で同氏は消費税率を12%に引き上げ、歳入額で14兆円の補填が可能になるとしている。

このように財源補填のエースとして政府が大きな期待を寄せる消費税。今回のトピックスは来年4月から引き上げられることになったこの消費税にスポットを当てた。

先頃、国会を通過した消費税の税率は4%と消費税1%につき2割5分の地方消費税を課した5%。ここでいう地方消費税とは、文字通り、逼迫する地方財政をフォローすることが目的となっている。

元来、消費税は、直接税としての所得税や法人税などを補填するいわゆる間接税として機能している。国家財政を見ると、歳入の内訳では所得税と法人税が、70兆円にのぼる一般会計の49%を占めている。消費税

は、建設公債（全体の13・7%）、特例公債（全体の4%）などの借金を除くと、租税収入の中では第3位（約6兆円、全体の8%）となる今や必須財源だ。前回の猶予措置同様に、今回も5%に移行する間に経過措置が実施される。また以下に挙げる項目は、地方消費税など現行の消費税の機能が一部変化しても課税対象にはならない。①寄付金、祝い金、補助金②保険金や共済金③株式の配当金や出資分配金など。

経過措置について

経過措置の対象となるものは、実施日以前の契約（公共事業、民間工事などの場合、今年10月1日以前）による予約売買などのケース、書籍、通信販売、発売日が適用日前である新聞・雑誌、割賦販売や延払条件付販売、旅客運賃などについて現行の3%が適用されることになる。

この経過措置について「消費税の課税は、資産の譲渡等が行われた時に行われる。その税率は原則として、その資産の譲渡等が行われた時に適用される消費税率によることとなる。

したがって、平成9年4月1日以降に行われる資産の譲渡等については、原則として地方消費税も含めた5%の税率が課税されることになる。資産の譲渡が適用日以降となるものに関しては原則新税率が適用されることになります」（国税庁タックスアンサー）。

いろいろと具体的に事例を挙げて説明すればよいのだが、この経過措置条項は非常に細部にわたっており、全てを列記するのは困難だ。例えば予約販売ひとつとっても、「不特定かつ多数の者に定期的に継続して供給することを約す契約」であるとか、「当該定期的継続供給契約に基づく物品の譲渡対価の全部又は一部を適用日前に受領していること」といった複雑なもので、簡単に言い切ることは難しい。

それでは、買い物などで実際どうなるのか。例えば、耐久消費財でもっとも高額なものと言えば住宅。この場合、当然、経過措置期間の平成8年9月30日以前の契約ならば旧税率が適用される。完成の引き渡し適用日である4月1日以降であっても、これを金額ベースで見ると、ち

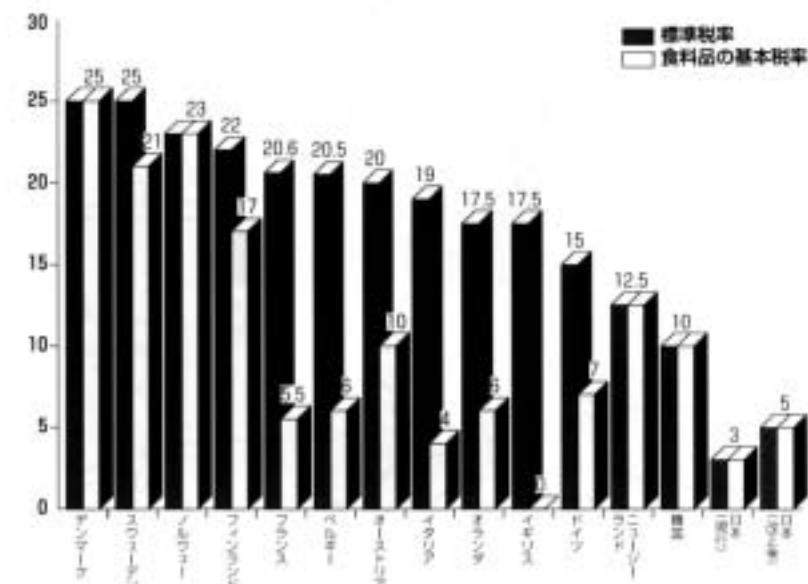
なみに平成6年の金融公庫利用者の平均住宅購入額は、25,598,000円。旧税率で算出すると住宅取得時の消費税額は767,940円となる。これを新税率で換算すると1,279,900円で、およそ500,000円の差額。住宅取得にはローンはつきものなので、それにローン期間の金利が加算されると、30年ローンで780,000円ほどの支払いとなり、旧税率との差額で考えても1.5倍増ということになる。

何故消費税なのか

最初書いた、さきがけの武村蔵相のコメントを見るまでもなく、今回の増税は、ひとえに国家財政の窮乏にはかならない。

年金や医療給付をはじめとした、いわゆる社会保障費用は、高齢人口の増大とともにうなぎ昇りになっている。21世紀初頭には65歳以上の老人が全人口の2割に達する。これを支えなければならない労働人口も、現在、4.3人で一人の老人を支えているものが、平成32年には、2.1人で一人という空前の老齢大国が現出することになる。

諸外国における消費税（付加価値税）の税率（1995年12月現在）



また、これに加え、不景気と労働人口の減少による歳入欠陥によって、建設公債をはじめとする赤字の補填額は、税収の落ち込みを反映して残高200兆円を突破し、一般会計の25%は今や「将来のツケ」で補っている。

歳出のうち、これらのツケの補填に支払われる比率は14%。主要先進国の蔵相会議の出席メンバーの中では、アメリカに次ぐ借金大国となっている（アメリカ15%、フランス13%）。

各国の状況

消費税の導入は、直接税に今後大きな期待がかけられない最後の牙城とも言えるものだ。高齢者と低所得層に対して「逆進的」という議論もあるが、実は先進国の中で導入している中では日本はまだ生易しい。

別表は、各国の消費税率の一覧。韓国の10%は言うに及ばず、高福祉で鳴らした北欧諸国に至っては、デンマークの25%を筆頭に、スウェーデン25%、ノルウェー23%、フィンランド22%となっている。

しかし、ここで注目したいのは、食料品といった生活必需品に対して、軽減税率を適用している国があること。これに対しては「国民の消費ニーズが多様化しており、何が生活必需品にあたるのか、納得できる説明をするのが難しく、区別することによる社会のシステムのコストアップもばかにならない」と国税庁では説明している。

いずれにしてもこの消費税、直間比率の見直しや、逆進性、また行政改革や小さな政府といった議論も含めて今後、大きなトレンドとなることだろう。

〔文：新谷敏之〕



HAYANO

「情熱発電所」
星野 敦制作

「学校大好き」

初めて聞く教科書に睡を醒かせた小学一年生。部活動や勉強に夢中だった中学時代。友や先生と将来を語り合った高校時代。学業ばかりではない大切な何かを育む若い時。広い視野と強くやさしい心を持った人間に育ってほしい。新しい校舎とともに…。



「甲府南高校・管理教室棟」

工期 平成6年10月14日～平成8年1月31日
施工場所 甲府市中小河原町
施工 早野組・興龍社共同企業体

株式会社 早野組

HAYANO CORPORATION

本社 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10
TEL 0552-35-1111 FAX 0552-35-1109
東京支店 千193 東京都八王子市千代田2-5-24
TEL 0426-67-8800 FAX 0426-67-9497

中部支店 長野県新田町中平2821-1 TEL 0265-22-2969 FAX 52-2971
新潟営業所 新潟県新潟市西區4-41-407 TEL 0251-3376-2897 FAX 3375-7124
静岡営業所 静岡県静岡市大田2丁目4-7 TEL 0541-246-2503 FAX 246-2510
岐阜営業所 岐阜県土岐市東橋の木町1丁目32 TEL 0572-155-2834 FAX 55-0877
駒ヶ根営業所 長野県駒ヶ根市赤穂3,459-1 TEL 0265-182-0360 FAX 81-5468

企業ウォッチング

(株)泉郷

常務取締役・観光事業本部長

大関 修 氏

おおせき おさむ

●泉郷データ●

昭和50年に建てた「ハヶ岳高原泉郷」を皮切りに、全国に点在する大規模なリゾート地を建設。リゾートホテルだけでなく、貸別荘を中心とする展開で、日本の大衆レジャーを支えている。各施設は「ハヶ岳高原泉郷」「泉郷別荘」「ふれあいの里別荘」「アピタルシンフォニー」「豊科高原泉郷」「泉郷別荘」「アピタルエコーパレスプリングス」「泉郷プラザホテル豊科」「安曇野泉郷」「泉郷別荘」「泉郷プラザホテル安曇野」「伊豆高原泉郷」「泉郷別荘」「泉郷プラザホテル、泉郷コンドミニアムホテル、アピタルサンタバーバラ」「苗場泉郷」「苗場コンドミニアムホテル」「奥羽泉郷」「泉郷プラザホテル奥羽」。本社・〒105 東京都港区上野井戸2-1-1 ☎03 (3329) 3311、予約センター ☎03 (5317) 2233



北巨摩郡大泉村谷戸の敷地内に点在する貸別荘群。泉郷の数あるリゾート施設の中で、最初に建てられたのがこの「ハヶ岳高原泉郷」だ。「ゴールデンウィークが終わって少したった頃、木々の枝が赤くなるんです。そしてすぐに、水彩絵の具でさっと塗ったような、薄い緑色の葉がつく…。何ともいえない美しさです。この瞬間が見たくて毎年その時期はハヶ岳に来ています」と話す常務取締役・観光事業本部長の大関修氏（45歳）。常務職として、全国に点在する各施設を回らなければならない忙しさの中、5月の中旬は決ってハヶ岳にいる。自然を愛おむ大関氏の人柄がうかがえる。

■本格大衆レジャーの先駆者「泉郷」

昭和50年に建てられたハヶ岳高原泉郷を皮切りに、55年に豊科高原泉郷、58年に伊豆高原泉郷、62年に安曇野泉郷、そして平成3年に鳥羽泉郷と苗場泉郷を完成させた。

「最初が高原だったから、次は海あり温泉ありで釣りが出来たらいいなあ、今度はスキーの出来る所がいいななどと、プランは社員のアイディアによるものなんです。ホテルと民宿の間みたいな施設があるというのがあるのが、泉郷のそもそもの発想。ですから大衆的な感覚で設計してあります。貸別荘はもちろんですが、私共はホテルの部屋にもキッチンを設置しています。調理器具から電子レンジまで備えてありますから、長期滞在もできます。部屋で自炊するもよし、施設内のレストランで食べるのもよし、お客様が自由に使っていただけるよう工夫しております」

■多様化する要望 リゾートオフィス建設へ

ハヶ岳高原泉郷では、野辺山や富士見高原などにスキー場が出来てからは、夏だけでなく冬の利用も増え、フルシーズン稼働状態。

「昨今のスキーブーム、アウトドアブームでお客様が増えたのは確かです。でも、最近のお客様は利用上手だと思いますね。『地元で農園が借りられないか』『釣りのポイントに詳しい人を教えてほしい』など質問されますよ」と大関氏。

一過性のレジャーから滞在型のレジャーに変わりつつあるようだ。「これからロングステイが主流になると思いますよ。それに耐えうる施設を造っていくと同時に、ソフト面ではサービスレベルをあげて、お客様のご要望に応えられるように努力していきたい」

利用者の要望がますます多様化する中、ハヶ岳高原泉郷では新しく「ハヶ岳セミナーフィールド」をつくった。社員研修や文化講座に使用できるセミナーハウス、数人で1棟を使用するゲストハウスには、FAXやコピーがあり、リゾートオフィスとして利用できる。このゲストハウスは通産省委託研究参加認定1号施設でもある。フィールド内にはバオハウスもあり、日常の忙しさを忘れて、日がな一日瞑想にふけることも出来る。もちろん各施設には、宿泊設備も整っている。リゾートと仕事を一緒にした新しいタイプの空間だ。「これからのリゾートは、ただ遊ぶ、泊まる、食べるだけでなく、研修の場、発想の場としてご利用していただきたいと思っています」 [取材：赤井美佐穂]

てんとうむし

視覚障害者と健常者が
一緒に絵本を読む

「コツコツ、コツコツ。地味な作業です」



きっかけは点字入門講座

「てんとうむし」はそこから出発した

昨年の阪神大震災で、一躍注目を浴びた“市民ボランティア”。その活躍ぶりが新聞をはじめ、テレビ、雑誌などで日本中、いや世界中に紹介された。生活物資の差入れや、避難所で食料の仕分けをしたり水を配ったり、倒壊した家屋をかたづけたりするなど、その温かい心に多くの被災者が涙した。反面、「何でもいから手伝わなくちゃ」と流行にのって出かけたものの、慣れないことをして体調を崩し、避難所の医薬品を使ったり、人が余っている場所にいつまでも居て、無駄に食料品を減らしてしまった“ご迷惑ボランティア”もクローズアップされた。一口にボランティアというが、そのタイミング、方法などなかなか難しい。

点訳サークル「てんとうむし」の代表・若林文晃さんは「自分のペースで、自分の出来ることをすればいいと思っています。無理をせず自分が出来るものを1つコツコツする。ボランティアは強制されてするものじゃないし…。今、私達がやっていることだって、自分達ができることがたまたま点訳だったので、こうして続けているんです」と話す。

「てんとうむし」の主なメンバーは、昨年6～8月に甲府市の南西公民館が開いた点字入門講座の受講生。講座終了後、自主的に点訳サークル「てんとうむし」を結成し、9月に発足した。現在メンバーは20人。主婦を中心にOLなど、ほとんどが女性だ。指導にあたっているの



「出来ることを続けているだけ」と語る若林さん

は、この道、うん十年という小西てつ子先生と萩原公子先生。活動は南西公民館で月3回、第2、3、4水曜日に行われる。活動日の他にも、各自生活の中の空いている時間を利用して点訳を続けている。「コツコツ、コツコツ、地味な作業です」と若林さんはいう。

今までの主だった活動は、甲府市生涯学習フェスティバルの中の「ふれあいまわり舞台」という、障害を持った人たちが踊りや歌を披露する催しの点字プログラム作りや、クリスマスカード作りなど。「クリスマスカードは、視覚障害者の子どもがいる家庭に配ったんですが、子ども達がとても喜んでくれて」と若林さんはうれしそうに微笑む。この準備段階を経て、今年の1月から本格的に絵本の点訳が始まった。



点訳活動に励む「てんとうむし」のメンバー

普通の絵本の上に点字シール

視覚障害者も健常者も一緒に読める点訳本

「てんとうむし」の点訳方法は、他の点訳とちょっと違う。普通、点訳本は、白い紙に点字を打っただけのもので挿絵などないが、「てんとうむし」は普通の絵本を使って点訳活動をしている。使用している絵本は、南西公民館が所蔵し、一般に貸し出しているものだ。

“タックシール”というプラスチックで出来た薄くて透明なシールに、点字を打っていく。1ページ分仕上がったら、そのシールをそっくり絵本の上に張る。シールは透明なので、目が見える健常者が絵本を読む妨げにはならない。もちろん、シールには点字の凹凸があるから視覚障害者にも絵本が読める。「大阪の“ふれあい文庫”というグループがこの方法をとってまして、そのセミナービデオを見て、私達も始めました。このやり方ですと、健常者のお母さんと視覚障害者の子どもさん、また、視覚障害者のお母さんと健常者の子どもさんが一緒に絵本を楽しめるんです。描かれている絵の説明も点字でつけておけば、視覚障害者のお母さんだって、子どもさんに絵を説明してあげることが出来ますよね。もちろん、視覚障害者の子どもさんと健常者の子どもさんが、2人で仲良く絵本を読むことだって出来ます」。子どもに絵本を楽しませてあげよう—若林さんらメンバーのやさしい気持ちが伝わってくる。

この絵本の点訳は、今年の1月からスタートした。1人1冊ずつ受け持って、今まで出来上がったのは4、5冊だ。



1冊仕上げるまでにかなりの根気がいる

コツコツ、コツコツ。根気のいる作業は今日も続く。「自分でも何か奉仕できることがあればと思って」「生涯学習のつもりで参加しました」「見えない人の気持ちになるって難しいですね」「時間を見つけてすこしずつ出来る範囲でやっています。本当に地味な活動ですよ」。メンバーがボツリボツリと話し始める。

「実は、視覚障害者の数は、年々減少しているんです。出生率の低さとか医学の進歩なんかによって。でも、決してなくなるってことはないんですよ。だから私達も、今の地味な活動を今後も続けていこうと思っています。また今年もプログラムを作ったり、クリスマスカードを送ったり…」と話す若林さん。いつか、自分達が作った点訳の絵本を、視覚障害者の子どもたちが喜んで読んでくれる日を夢みて、コツコツ、コツコツ、地味な作業は続く。

[文：赤井美佐穂]

◆てんとうむし◆

甲府市の南西公民館が、公民館事業としてはじめて開いた点字入門講座の受講生達が自主的に結成した会。現在メンバー20人。甲府市内に在住の主婦を中心にOLなど、女性がほとんど。平成7年9月発足。活動は極めて地味だが、「視覚障害者も健常者も一緒に楽しめる」斬新な方法で点訳本を作っている。山梨県内では、山梨ライトハウスが点字図書館を持っているが、点字本はまだ不足がち。そのような状況の中で、「てんとうむし」は絵本に着目し、日々努力を重ねている。

代表者：若林 文晃

〒400 甲府市国母6-4-2

TEL 0552-28-5571

早野グループ4社から 一番ホットな情報をお届けします

■新コンセプトファミリービークル、トヨタ・イプサム

こんなクルマがあったらいいな、をカタチにした「トヨタ・イプサム」の誕生です。どこから見てもカッコいいハンサムなボディーは7人がゆったりとくつろげる余裕の室内でありながら、5ナンバーのジャストサイズ。混み合ったデパートの駐車場などでもラクラク運転できるうれしい取り回しの良さです。エンジンは、トータルに



バランスのとれた、静かで燃費も抜群の高性能2.0ハイメカツインカムを搭載。きびきびした走りが実感できます。「安全」にも積極的に取り組み、ABSとデュアルSRSエアバッグを全車に標準装備。衝撃による変形を最小限に抑えるボデー構造で、万一の衝突時に乗客を保護する衝突安全ボデーGOA(ゴア)を全車に採用しています。

トヨタビスタ山梨㈱
本社：甲府市朝日3丁目10-21 TEL 0552-32-5511

■新商品「CHENE・シエヌ」発売

トヨタホームでは、自動車生産のノウハウを活かし6月25日から新商品「CHENE・シエヌ」を発売することになりました。「シエヌ」とは、フランス語で《櫟の木》という意味です。永く、堅牢で丈夫な家をイメージしました。「シエヌ」は、あらかじめ準備された仕様(プラン・仕様装備)の中からお客様に選択してもらう企画型商品で、基本プランは36通りと充実しています。外観も鉄平石調のシャープな外壁で、屋根形状は、寄棟と切妻の2種類など、とても見栄えの良い外観です。低金利時代の今がチャンスです。住宅に関することなら何でもトヨタホームにご相談ください。

CHENE
シエヌ



トヨタホーム山梨㈱
本社：中巨摩郡昭和町河内1043 TEL 0552-75-1234

■死去にともない社長が交代しました

入社以来当社の発展に尽された、代表取締役社長白木高一氏が5月4日に逝去されました。これにより5月29日の取締役会の席上で、代表取締役専務早野史郎の代表取締役社長への就任が承認されました。

白木前社長は昭和25年に入社、昭和40年に取締役専務部長、昭和42年に専務取締役、創業者早野欽介氏亡き後、昭和63年からは取締役社長として指揮されてきました。昭和27年当時、通運事業が主流を占めていた頃、現在の名鉄運輸(株)と業務提携し、同社の甲府営業所の代理業務を行っていました。昭和33年一般路線貨物自動車運送事業が認可され、甲府―東京間の路線運行を開始するに先立ち、前社長は当社の現常務取締役瀬田昭ら4人(オート三輪2両)とともに、甲府通運定期部を開設しました。始めた頃の荷物は限られたものでしたが、場所も昔の地名で甲府市の八日町から三日町、さらに昭和36年朝気(トヨタビスタ山梨本社所在地)へ移転した頃には、定期部の従業員、車両とも増大していました。昭和43年には丸の内二丁目の本社建物跡に5階建てのビルを新築し、丸二ビル(株)として貸ビル業を始め、本社事務所を置いていました。前社長の表彰歴を見ると、貨物自動車運送事業関係、公共団体関係の要職に就いていたため、数々の受賞があり、特に昭和62年運輸大臣表彰、平成元年黄綬褒章、去る6月12日には正六位勲五等双光旭日章を受けることができましたのも、関係各位のご厚意と痛感するとともに、前社長の多大な功績を従業員一同誇りに思う次第です。前社長の業歴を辿れば、甲府通運の歴史、当時の役員、従業員の方々のご苦勞を伺い知ることができます。これから、早野社長新体制で臨む甲府通運(株)に益々のご愛顧の程をよろしくお願い申し上げます。

甲府通運㈱
本社：中巨摩郡富田町流通団地3329-1 TEL 0552-73-0611

■八田・身延プラント改築工事完成

時代の変遷とともに「みち」の姿が変わり、さまざまな機能を持つ舗装が開発されております。当社も創業以来、道路舗装の技術開発の一翼を担いつつ、新たに開発されたアスファルト合材を供給するため、プラントの整備に努めております。アスファルト合材の品質を保証する管理機器、貴重な資源を有効に利用するリサイクル設備、周辺地域及び労働環境を保全する公害防止機器など、アスファルトプラントの最新技術を採用して「良質な合材」が生産できる「良質なプラント」を設計いたしました。



八田プラント

再生合材の製造工程

- ①舗装現場からの発生材(舗装塊)を破砕機にて細かく砕き、ふるい分けて再生骨材をつくる。
- ②ドライヤー(再生)にて加熱し、サージビンに一時的に蓄える。
- ③アスコンプラントを稼働させ通常合材(バージン材)を製造する。
- ④再生プラントで製造したリサイクル材とバージン材をミキサーにて混合し、再生合材を出荷する。

㈱早野組
甲府市東光寺1-4-10 TEL 0552-35-1111

理学提要・人身窮理書などの名著を著わした元恭は
甲斐国の生んだ日本的蘭方医だった

広瀬 元恭

(ひろせげんきょう)

上野 晴朗

うえの はるお

1923年山梨市生まれ 歴史家・作家 駐立図書館郷土資料室を
経て 67年から文筆活動に入る 著書に「甲斐武田氏」等多数

広瀬保庵のあとをうけて、蘭方医として日本的に有名な広瀬元恭（文政4年（1821）～明治3年（1870）10月27日）を今度は紹介してみよう。日本の蘭方医学は鎖国時代長い低迷が続いたが、江戸中期から漸く花開くようになった。明和8年（1771）あの有名な杉田玄白らが、江戸千住の骨ヶ原において刑屍を解剖したのが発端となり、蘭方医学の信ずべきを悟るようになって蘭方医学が急激に普及するようになった。

甲斐国で蘭方医として大きな足跡を残した人に、古市場の大久保章言（2代、1801～1848）がいるけれども、元恭はその後の活躍といえるだろう。

広瀬元恭は文政4年（1821）に巨摩郡藤田村（若草町）に生まれた。祖父に有名な広瀬中庵（1732～1810）がいる。祖父は市川大門村の出身で、つまり広瀬保庵が家系を継いだ家に生まれたが、師五味釜川（1718～1754）の関係で儒医として藤田村に移り医業を興した。その子景景も名医の誉れが高かったが、元恭はその和景の第二子（長兄は和達という）だったのである。元恭はそんな家柄に

生まれたので、幼にして句読を松井漢齋に学んだほどで、15歳で江戸に出て、坪井誠軒の門に入っているから、大変な優秀だったことがわかる。

たとえば江戸深川の日習堂学塾は、坪井誠軒の私塾として大変著名で、



日本で初めてローマ字を使い、自分の肖像画入りの蔵書印を遺した広瀬元恭

この門からは有名な緒方洪庵なども生まれている。元恭は洪庵の後輩にあたるが、やがて頭角をあらわし塾頭にまで出世して、ついには洪庵と並び称されるように名声が上がったのだから、その水準の高さが自ずと理解できよう。

私は山梨県医師会誌の編集執筆を

昔依頼されて、前史として甲斐出身の著名医師を追究したことがあったが、興味深いことに江戸中期から後期に入ると、甲府の勤番医や甲府医学所にかかわる医者よりも、甲府を離れた以西や以南に歴史に残る名医が輩出していることに気付いて驚いたことがあった。

たとえば住吉村の加賀美光章、市川大門村の座光寺南屏、藤田村の五味釜川、市川大門から藤田村に移って開業した広瀬中庵、藤原村出身の山県大式など知らぬ人はない。五味釜川などは萩生祖徠の門下で釜川の門下には山県大式が生まれたり、元恭の祖父広瀬中庵、座光寺南屏などがおり、峡南・峡西にその人脈が散って、一時代を築き上げたのである。

とくに儒医一本の世界から次第に蘭方医の世界の幕がひらいて、市川大門村の橋本伯寿や古市場村の大久保章言（2代）などが世に出るようになり、そうした雰囲気の中から広瀬元恭のような人物が、生まれるべくして生まれ出たのであった。

甲斐の蘭方医学の開花は文政年間以後であるけれども、大久保章言（2代）は高野長英らとともに、長崎の



西医脈鑑三巻



名著といわれる理学提要

シーボルトの門に学び、蘭学勃興の機運をつくったので、若き日の広瀬元恭はおのずとその深い影響と刺激を受けた様子がうかがえる。

また緒方洪庵が大坂に出て適々学塾をつくったことに刺激されて、江戸深川の日習堂学塾を去った元恭は、新天地を求めて京都におもむき、弘化元年（1844）にはついに京都に蘭学塾の時習堂を開くにいたり、医科七科をもって門弟を養成するようになった。

つまり医学だけではなく蘭学に深く精通したので、多くの蘭書を翻訳したり、西医学問への道を拓くことにつとめた。そのため医学教授の間には、蘭学をもととする兵制、砲術等も教えた。そんな足跡を残したので、明治維新にあたり、官軍が病院を京都に建てたおり、元恭は請われてその院長にもなった。

その著書もすくぶる多く、理学提要8巻・知生論3巻・西醫脈鑑3巻・人身窮理30巻・新訂牛痘奇法1巻等は広く知られている。彼の足跡の中で前著にも見られる種痘との関係が深いことは特に注目してよい。甲斐の種痘のあけぼのにも深くかわ

っているのである。

嘉永2年（1849）の「新訂種痘奇法」の序文に次のように書いている。「コトシ嘉永二年仲秋、蘭商船中ニ医モウニッケナル者アリ、初メテ痘苗ヲ載セテ長崎ニ至ル、余モマタ其ノ苗ヲ得テ、コレヲ数十百人ニ試ム、果シテ西洋諸書論ズル所ノ如ク、一ノ陰症ナシ、実ニ嬰兒ノ一大幸ナリトイフベシ（以下略・原文漢）」とあって、元恭が逸早く蘭医モーニッケから牛痘苗を譲り受け、数十百人に試して一つの陰症もなかったと自信をもって述べているのである。

この悪性の伝染病、昔は痘瘡または痘毒と呼ばれて一旦この悪疫にかかると、人類の死因の最大なものとして恐れられてきた。それだけに種痘苗とその技術の到来は最大の福音というべく、その普及に逸早く取り組んだ元恭の功績は大きい。ただ世に伝わる種痘史には、ジェンナーの牛痘法が長崎をへて伝来するはるか以前の天保9年（1838）に順天堂を興した佐藤泰然が自分の息子に人痘法で種痘を行ったという説もあり、また佐賀藩の林宗建がモーニッケから種痘技術を学び、わが子に接種し

たのが、わが国牛痘法の初めなどと書かれているが、注目すべきは元恭はその年モーニッケが来朝する前に、すでに「西洋牛痘新法大全10余巻」を完成させており、あまりに龐大だったので未刊になっていた。その前後長崎の友人某からイギリス人スタートンの「牛痘奇法」をもらい読んでみたところ、自分の見解とはほぼ一致したので感銘を受け翻訳したと記録されているのである。

『甲州医婦伝』を見ると、嘉永3年広瀬元恭は門人の杉村元成に託して、藤田村の生家兄の和達のもとに牛痘苗を送り、種痘が始まったことを伝えている。広瀬家の「元恭年譜」を見ると、「嘉永三年三十歳、元恭京都ヨリ兄和達ニ痘苗種ヲ送り、ソノ長子篤太郎ニ種痘ヲ施シ、ソノ結果有効適切ナルヲ認メテ広ク峡西地方ニ行フ、コレ峡西地方ニ於ケル種痘ノ濫用ナリ、コノ年痘種奇法付録ヲ著ス」と見える。このように甲州への種痘が始められたのは嘉永3年であった。広瀬和達は名を平五郎、元恭の兄で、子供篤太郎は嘉永2年4月生まれ、甲州種痘史にとって忘れてならない人物のひとりである。

ボクのアート品観察日記 2

ジョン・コンスタブル「乾草車」

山本 育夫

やまと いくお
詩人
ミュージアム・マガジン・DOVE (ドーム) 編集長

美術品観察学会会報 1号スタート

おかげさまで、美術品観察学会の会員が100名を越えた。観察報告もぞくぞくと届きつつある。会報の1号目がもうすぐ出来上がる。

「どこそこの美術館の何々という作品の、こここのところが不思議だと思ったんですが、学芸員に聞きにくくて」というような相談を学会に送ると、すぐに学会が会員に代わって美術館に問い合わせ、その様子を伝えるという「相談室」や、文章に書くのがちょっとという方の話を聞き書きする「談話室」などのコーナーも設けられたので、読者の皆さんの中で参加してみたいという方がおられたら、下記にご連絡いただきたい。

ただし、なにぶんにもボランティアでやっている学会なので、郵送実務などが増えないように、できるだけファックスでお願いしたい。折り返し学会要項と申込書をファックスする。もちろん電子メールでの応募も大歓迎である。

【美術品観察学会事務局】

山梨県中巨摩郡敷島町長塚 237
プロシード甲府 909 号室

電話 & ファックス 0552-77-9216

電子メール yamaiku@mx.meshnet.or.jp
QYW00233@niftyserve.or.jp

さて、今号ももう一つ、名画天気予報をお届けすることとしよう。

イギリスの二大画家といえば、ジョセフ・ターナーとこの人、ジョン・コンスタブルといわれている。ところが実際のところは、どうもターナーの方がさっさと有名になってしまったらしい。

事実ターナーは26歳でアカデミーの正会員におさまってしまったが、コンスタブルがアカデミーの正会員になったのは、死のわずか8年前の52歳の時である。ターナーの絵はほとんど買い手がついていったが、コンスタブルの絵が初めて売れたのは39歳の時であった。ところが生涯にイギリスで売れた点数は20点ほどであったというから、生活は大変だった。

しかもコンスタブルの妻マリア・ピクトルは、40歳で肺結核のため亡く

なってしまう、残された7人の子はコンスタブルが育てなければならなかった。

ふるさとをロンドンで描く

この「乾草車」は、コンスタブルの代表作ということになっているだけあって、精密なこの絵の鳥瞰図までできている。中央に浅瀬を渡る荷馬車が描かれており、手前にその様子を見守るぶちの犬が一匹。向こう岸には釣り人がひとり。さらに遠景の牧草地には干し草を満載した荷車や、大釜で押し草を作る人たちの姿が描かれている。もっともこの様子は、参考図版では小さすぎてわかりただけに違いない。

左手の家はウィリー・スコットという人の家であり、流れている川の名前はストウア川。つまり、すべてがコンスタブルのよく熟知しているふるさとの風景であり、しかも、ここに描かれている川や草原はすべてコンスタブルの父の持ち物であった。

ところでコンスタブルはこの光景を、1820年から21年にかけて冬のロ

ンドンのアトリエで描いている。制作に5カ月を要した。つまり、すべては記憶によって描かれているのではあるが、周到なたくさんのデッサンが集められていた。この雲の情景も、一日の空の様子を克明に観察したデッサンの中から選ばれた雲の姿なのである。

雲が意味するもの

遠くには、かなり発達した積乱雲が描かれているので、その空の下では激しい雷雨が降っていても不思議



「乾草車」

ジョン・コンスタブル 1821
油彩、キャンバス
130.05 × 185.5cm
ナショナル・ギャラリー蔵

ではない。では、このあたりはどうだろうかと思行きを見ると、画面の上部には扁平積雲がその怪しい姿を残している。この雲模様がボクたちに教えてくれることは、ほんの少し前に低気圧がこのあたり一帯を通過したばかりで、それにともない一時的な雷雨が降ったに違いないということである。この絵の風景は雨が上がって1時間くらいたった風景であろう。

コンスタブルの独特な白い絵の具の使い方。茶色のベースの上に白い絵の具でキラキラした点描をするのだがその描法が、湿り気を帯びたこの風景の大気の感触をみごとに伝えてくるような気がする。湿り気はあるが、木立を静かに揺らす風も吹き抜けていて、涼しげでもある。遠雷が聞こえてくるようなこの一枚の風景画の世界は、結婚して5年目、長男が生まれてすぐの時期に描かれた大作である。

コンスタブルの、雲の観察油彩スケッチもたくさん残っているという。一日の正確な時間と、雲が動く早さと方向を丹念に記録したものだ。その中からコンスタブルが選び取った

雲模様が、幾分か波乱に富んだ表情をしていることは、感慨深い。なぜなら、この絵が完成した時期に、すでに妻のマリアの体調は思わしくなく、近い未来に最愛の妻の死をも思い描かざるを得なかったコンスタブルの、不安な気持ちがこうした雲行きを選び取ったといえなくもないからである。この絵は当時ほとんど注目されず、風景画そのものがまだ低い位置におかれていた時代でもあったのだが、コンスタブルは依然として不遇であった。

この絵のなかに登場する人物たちは、一様に下を向き暗い感じを伴っているにもかかわらず、ただひとり、いやただ一匹だけ、犬だけが頭をしっかりと挙げて描かれている。もちろんこの犬がコンスタブル自身であるという仮説は成り立つだろう。

コンスタブルはこの絵を描きながら、自分のふるさとの大気に包まれていたのに違いない。川べりで、水のささやき、遠雷の響きにじっと耳を澄ませていたのに違いない。そのときつかの間コンスタブルは、妻とともにふるさとの懐かしい風に吹かれていた。

教えます！夏を賢く過ごすコスメ 紫外線対策の最新情報 これでもう、あなたのお肌は大丈夫



梅雨が明けたらいよいよ夏本番！毎年
のことながら、やっぱり気になるのは「お
肌の日焼け」ではないでしょうか。
そこで今回は、紫外線防止対策効果の
高い化粧品のお話。化粧品会社各社の最
新情報を仕入れて、あなたもこの夏を賢
く乗り切りましょう。

◎紫外線の恐さについて...

キラキラふりそそぐ太陽の光の中には、
ご存じ「紫外線」が6.1%含まれています。
含有率はそれほどでもないのですが、こ
れがけっこうイタズラ者で私たちの大切
なお肌に、いろいろな悪影響を与えます。
長時間、あるいは多量に浴びると軽い火
傷の症状（赤くなってヒリヒリする）を
引き起こし、皮膚のメラニン色素を刺激
して「しみ」の原因になってしまふので
す。そればかりでなく、皮膚の弾力性（コ
ラーゲン）や弾力性を低下させたり切断
したりして、「しわ」や「たるみ」の原因
にもなるのです。

「しみ、しわ、たるみ」？ それってお肌
の老化現象まっしぐらじゃない。そう。
その通りです。紫外線は百害あって一利
なし。お肌にとってはまさに天敵。そこ
で各化粧品会社は、毎年毎年UV（紫外線）
カット製品の新開発にしのぎを削っている
のです。

ちなみに、UVカット製品に表示されて
いるSPF10とかSPF20とかの「SPF」と

は、SunProtectionFactorの略で、紫外
線を防ぐ目安の数値。例えば、ちょっと
外出、通勤、買物、洗濯物を干すなど
には、SPF10以下で大丈夫だし、逆に、真
夏の海岸やゴルフ、ハワイのパカンスな
どにはSPF30～50以上がオススメ、とい
うように、数値が高い程、効力も増して
きます。今年はなんとSPF60なんていう
のも登場。でもね、個人差があるので実
際には試してみたら、有効に利用して下
さいね。



夏だって白い肌を守り続けたい

◎この夏、各社の最前線コスメ

さて、今年の夏のUVカットコスメの状
況をまとめてみましょう。

●下地 何事も基礎が大事。下地はUVカ
ットに大きな効果をもたらすばかりか、
ファンデーションのくずれを防ぎ持ちを
よくすることで、さらにカット効果を高

めます。カネボウのブランシール・ホウ
イトニングスボツプロテクターNは、薬
用美容液で化粧下地としても効果抜群。
お肌の働きのバランスを整えながら、お
肌を明るくしてくれます。また、ファン
デーションの、のりをよくするフォーム
タイプの下地はシュウウエムラのUVアン
ダーベースWナチュラル。うっすらとし
た肌色なので、そのままでも自然な仕上
がりになります。

●ファンデーション 紫外線を防ぐのは
もちろん、お肌の色が自然に見えるよう
に透明感があること、それと薄つきであ
ること、プラス、オフィスのエアコンな
どの乾燥からお肌を守ってくれることな
ど、ファンデーションに求められる条件
は厳しいのです。今年はシャネルが水あ
り・なしのツーウェイファンデーション
「ドゥーブル・タン・ブードゥレ57」を発
売。蛍光灯、外の強い日差し、間接照明
の柔らかな光など、どのタイプの光にも
美しく映えます。もちろんUVカット効果
あり。その他、強力タイプでおなじみの
資生堂アネッサも「SPF60」と、今年も
強い味方です。「紫外線は怖い」と力説し
てきましたが、過敏に反応するのはいけ
ません。逆に考えれば、以上のことをよ
く頭に入れて紫外線と上手にお付き合い
すればよいのですから。ポイントは「予
防」と「アフターケア」。

夏はお肌も美しく輝いて見える季節で
すもの。さあ、街に出かけましょう。

こんなところに山梨 思いがけない場面で ふるさと再発見

甲府空襲があったのは昭和20年7
月6日の午後11時半過ぎのことであ
る。子供たちが七夕飾りをすませた
その夜に、アメリカ空軍B29の焼夷
弾攻撃を受けた。爆撃はおおよそ2時
間続き、甲府は全市の72パーセント
を焼失し、死傷者2112名を出した。

この甲府空襲によって焼き出され
たなかに、人気作家の太宰治もいた。
太宰が夫人の故郷である甲府に
疎開してきたのはその年の4月で、
36歳だった。そして甲府で執筆され
たのが「お伽草紙」である。縮取
り、浦島さん、カチカチ山、舌切雀
といった誰でも知っているおとぎ話
に、新しい解釈を与えた作品集であ
る。

そのなかの「カチカチ山」の舞台

は、「これは甲州、富士五湖の一つの
河口湖畔、いまの船津の裏山あたり
で行われた事件であるといふ。甲州
の人情は、荒っぽい。そのせゐか、
この物語も、他のお伽草紙に較べて、
いくらか荒っぽく出来てゐる」と語

甲府空襲と太宰治 兎と狸のあの 「カチカチ山」の残酷物 語の舞台は河口湖

りはじめられている。

本来、この話は、狸がその悪行の
ため、兎によって仕掛けられた泥舟
に乗せられ、湖底に沈められるとい
う勧善懲悪の筋書きだが、太宰は、
この狸をたいそう気の毒がって書い
ている。

狸を風采の上がない野暮天に

し、兎を16歳の処女とし、おまけに
美人にしている。そして「人間のう
ちで最も残酷なのは、えてして、こ
のたちの女である」と言い、「こんな
女に惚れたら、男は惨憺たる大恥辱
を受けることにきまつてゐる。けれ
ども、男は、それも愚鈍の男ほど、
こんな危険な女性に惚れ込み易いも
のである。さうして、その結果は、
たいていきまつてゐるのである。」
と続けている。

美少女によって泥舟に乗せられ、
河口湖の湖底深くに沈んだノロマで
トンマな男の話は、現代の男性にと
っても身につまされる教訓となつて
いる。誰でも知っているおとぎ話
も、語る人によってさまざまな新解
釈をもたらし、なるほどなあと、溜
め息とともにうなずかされる。

ところで、甲府空襲のあの夏、こ
の「お伽草紙」を仕上げた太宰治は、
7月28日、甲府を発って故郷の青森
へ向かった。（石）

Book

生命に満ちた世界 「ブナの森を楽しむ」

西口義雄 著



森歩きを楽しむは、出会いと発見だ
という。のんびりと歩き、草花の美しさ
に足を止め、また、野鳥の声に耳を澄まし、
山菜を知り、森のなかで生活するすべ
ての生き物と顔見知りになることだと奨励
する。

木々の生態を語るエピソードが面白い。
たとえばドングリは、デンプン、脂肪、タン
パク質、ミネラルなど栄養がいっぱい
詰まっている。地上に落ち、根を出し、本
葉が出るまでの栄養補給源である。だが、
栄養があるから野ネズミに狙われる。そ
こでドングリは、タンニンを混ぜて洗く
することを考えた。

ところが野ネズミは、春先のドングリ

は甘くなることを知っていて、これを食べ
る。冬の低温にさらされると洗が抜ける
のをいつか覚えて、冬の間は地中に貯蔵
するのである。

しかしである。これもドングリの戦略
で、ドングリは野ネズミの貯蔵庫で発芽
のチャンスをつかむのであるという。

この他、コリンゴはなぜ小さくて甘い
のかという、自分の好みの野鳥に食べ
てもらい、さらに消化されない種を蒔き
し、野鳥によって分布を広げるのだとい
う話など、自然の不思議さに満ちた内容
だ。森は、四季を通じ、色も、音も豊かだ
ということが伝わってくる。（川）

岩波新書 ¥ 680

会いたい人から 会いたい人へ
知りたいことから 知りたいことへ
リレーでつなぐエッセイ

かけ 歴史を翔る



信藤 祐仁

しんどう ゆうじ
武田氏研究会事務局
山梨郷土研究会事務局

もう何年も前に『時をかける少女』という、たしか原田知世主演の映画がありました。NHKの『タイムトラベラー』も同原作のドラマでした。未来から来た少年の手違いで、主人公がタイムスリップしてしまうSFです。

行き先がわからないのは困りますが、時間や空間を自由に移動できる「タイムマシン」は、誰もが欲しい機械です。歴史、特に考古学を勉強している者にとっては、まさに夢のマシンです。何しろ自分自身の目で、歴史を検証できるのですから。

しかし現実には、記録の無いかあるいはあっても限られた時代のようにすを明らかにするには遺跡・遺物あるいは文化財などから地道に歴史を組み立てなくてはなりません。

私が住む東光寺は、甲府の積翠寺や御坂の大野寺と同様に、古くからお寺をその地域の名に冠している由緒あるまちです。歴史や文化財に興味をもっている私にとって、この東光寺の町は以前に住んでいた古府中とともに、快適な歴史的環境と歴史復元の題材を提供してくれる地域でもあります。

町名の由来となった東光寺は、平安時代に興国院という密教寺院として開創され、鎌倉時代に渡来僧蘭溪道隆によって甲斐国で最初の禅寺として生まれ変わった名刹です。蘭溪は、鎌倉幕府から疎んじられ東光寺に流されてきた人物ですが、後に大覚禪師として日本最初に禅師号を賜った歴史の教科書にも出てくる著名な宗教家でした。東光寺といえば、テレビのCMでも知られる彼がつくった庭園は見事で、枯れ山水と池を巧みに組み合わせた名園として知られています。

後に武田信玄の長男義信が中興開山となり、甲府五山の一つとして寺運も栄えました。国指定の重要文化財の仏殿はこのころに造られたものです。しかし、義信は信玄と対立しこの寺に幽閉されています。また、諏訪の領主諏訪頼重もここに幽閉されています。蘭溪・義信・頼重と流されたり幽閉された地としてこの寺が当てられた背景には、地理的な要因の他に何か別なものがあるものと思われま。

入口の西に並ぶ百基を越える六地藏の数々と仏殿の中に安置されてい

る薬師如来像や十二神将像からは、仏教の厳しさや、やさしさが感じられます。墓地の中の武田義信と諏訪頼重の墓所には中世の五輪塔と宝篋院塔が並んでいますが、信玄の栄光の蔭に隠れてその犠牲となった彼らの墓からは、なにかしらもの哀しい雰囲気漂っている気がします。

現在手入れがいきとどき整備された境内にたたずむと、往時の喧騒はまるでうそのようです。過去この地を舞台に繰り広げられた、甲斐国の歴史を揺るがす大事件があったことは、違い時間のかたに忘れ去られてしまっています。もし、タイムマシンを使ってこの目でそれらを実際に検証することができたら、それはすばらしいことです。

ひとりの人間の一生の中で、歴史の中に深く刻まれる事件と遭遇することはほとんどありません。しかし、寺院やお墓など歴史的事件の一端を示す資料から、歴史を組み立てて歴史の追体験をすることができます。頭の中では、時空を越えた歴史を翔ることが可能なのです。

個人組織から会社組織へ 会社創設者早野欽介の人となり



「早野欽介甲府通運株式会社設立に付いて」と「無邪莊会談」第1頁

初代早野金蔵が土木建設業とともにやって来た運送業について二代早野欽介は「甲府通運株式会社設立について」(昭和52年草稿)でつぎのように述べている。『(前略)昭和8年父金蔵の没後引続き免許通運業者の下請業者として鉄道発着貨物積卸業に従事して参りましたが昭和19年(1944)鉄道卸当局の要望に副ひ当該下請作業を日本通運株式会社に移動致しました。亦昭和18年甲府小運送株式会社自動車取締役である義兄中沢誠の辞任にともない同社取締役に就任、終戦後は同社取締役社長に就任現在に至っております。昭和23年(1948)11月3日、運輸省卸当局より小運送業複数制化実施に関する閣議決定の公示があり、甲府小運送自動車会社にて小運送業免許申請書を昭和23年12月1日に甲

府管理部に提出致しました。(以下略)』

昭和24年の貨物自動車運輸業者の営業所在地として甲府市橘町一番地となっているので本社の場所は現在の丸の内二丁目、丸二ビルのところである。社章は「丸に小」㊦を使用し

ている。早野欽介は大正元年(1912)の生まれ、旧甲府中学を卒業し父の事業を継いだ。その間、昭和8年には当時の三等郵便局である甲府酒折町局(現甲府和戸郵便局)の開局に盡力、住民の望みにより同局長に就任、同25年までその職にあった。その人柄について先代金蔵同様に川手秀一著「無邪莊会談」でみると『(望月)父君に似て若いからさぞかし酒豪だろうなあ(吉田)ところがどうして酒は全然嗜みません。請負会社や荷役会社の社長をしている様な人は概ね豪酒なんだが一滴もやらののですから妙です。それでいて乾分にはいくのですから感心ですよ。(中略)そうです一人息子です。ところで望月さんは傑物に成れそうだとおっしゃ

林 陽一郎

はやし よういちろう
山梨県教育委員会・県史編纂文化財担当

たが既にもう甲州の青年傑物の一人に成っています。勿論親の七光りもありましょうが。ところが本人はそのことを良く心得て居って「遊びながら、成人して、苦勞を知らない」と謙遜して居る程何にも彼も心得ている。身長五尺五寸、頭髪に油もつけず、無雑作に分けている辺り何処か貴公子という雰囲気醸成していますな(中略)常備百数十人の乾分を擁して居りますが早野社長を我が父の如くに心服して居ります。人心を収養し人を統御する術に於いては甚だ長じて居り、且つ幕下を憐むに至っては誠に人の長たるに適しています。こうしたことは父金蔵氏に酷似して居ります。だから彼の乾分は彼の為には水火の中に飛び入るをも辞せざる者が多いのです。(望月)それなら親爺の若い時と変らぬ男らしさと大親分的貫禄だ(吉田)21才の時酒折の郵便局長に就任したがつい先年辞職する迄一度も局長の椅子に座した事がない。全部人委せで押し通して来た程大雑把で線が太いんです。それでいて、部下がその人格に傾倒して居るから間違いを起さないのです。(以下略)』

「サービスのよさ、面倒見のよさに
惚れ込んで購入しました」
仕事もプライベートもこなすタフなヤツ
“ハイエース”

有限会社 山久

「バシッ、バシッ」。大きな機械音が会社中に響く。山久は、電源コードを主な製品とする部品製造会社だ。フロアではパートさんたちが休みなく作業している。

「出来上がった製品を運搬するのに、ワンボックスカーは必須」と話す鈴木博社長（45）は、仕事とプライベートをあわせて、ハイエース5台、セブター1台、ターセル1台を所有している。かなりのトヨタビスタびいきのユーザーだ。「ハイエースは

使い勝手がいいですね。製品を運搬するのも、人を乗せるのにも、なにしろ量に乗せることができますから。もちろん製品は、雨にあたってもほこりがついていけませんので、屋根のないトラックタイプではダメです。サスペンションが硬いのも、運搬するのに便利な点の1つです。ターセルは営業車として使用しています。駐車スペースが狭くてすみませんので、街中を乗り回すのに非常に便利。小回りもききますから、テレビコマーシャルの通り『狭い道もスイスイ』です（笑）。本当に」



<トヨタビスタ山梨のページ>

「私は、基本的に車は動けばいいと考えているんですよ。それに価格的にも性能的にも、メーカー間でそんなに差はないと思うし…」という鈴木社長。では何故トヨタビスタを選ぶのか。「担当の方の人柄です」ときっぱり。「車を売ったら売りっぱなし、後の様子は気にかけない—こんなのはダメ。その点、ビスタさんの担当の方は、きちんとした人でしてね。面倒見がよくって、困った時にはすぐ来てくれるし、会社にも定期的に顔を出してくれますよ。でね、いつもビスタさんをお願いしてるんですよ」

プライベートでもハイエースに乗っている鈴木社長。休みの日は、奥さんと子ども3人を連れて、キャンプに釣りにと大忙し。「家族や友人などと一緒に、大勢でワイワイにぎやかに出かけるのが好きなんです。ハイエースはとても重宝しています」。

9月には6人家族になる鈴木社長のお宅。ハイエースがますます活躍しそうだ。

〒409-38
中巨摩郡田富町布施2180
TEL 0552-73-8962

1階和風、2階は洋風
三世代同居の賢い選択は
トヨタホームの「メレーゼ」

<トヨタホーム山梨のページ>



名取愛一さん宅（櫛形町）

白根町から櫛形町に抜ける国道52号線沿をいくと、「甲斐竜」の看板が目につく。長年続けた製糸業の屋号を、酒屋の店名に改めて店を構えている。ご主人の名取愛一さんは会社勤めで、店を20年間切盛りしてきたのは奥さんの静江さんだった。「今は息子（憲一さん）に店を任せていますが、ちょっと前までは店と畑で、そりゃあもう、忙しかったですよ」という。

国道52号線の拡張計画と、それまで住んでいた家の老朽化もあって、昨年12月、トヨタホームの「メレーゼ」に新築した。もちろん店も新し

くした。

実は、以前住んでいた家は、建てられてから百年以上もたった古い家。大きな柱に、広い土間、多くの客間と、それはもう絵に描いたような旧家だった。「広いことは広かったけど、やはり住みづらかったですね。使わない部屋がいくつもあって、冬は暖房がなかなか効かなかったりで、長年不便を感じていました。私達の世代はそれでよかったかもしれないんですけどね、息子達に託すためには、今の生活様式に合った家を、と思ひまして」。

古い家を取り壊す時には「思わず

涙が出た」名取さん一家だったが、トヨタホームのスピード施工には驚かされたという。

「半日もしないうちに枠組みが出来上がって、あれよあれよという間に完成してしまいました。それと同時に、新しい家への期待もどんどん膨らみました」

名取さん一家は夫婦と息子さん、娘さん、それに名取さんの両親の6人暮らし。「おじいちゃんとおばあちゃんのことを考えて、1階は和風に仕上げました」という間取りは、和室の居間と、続きになっている八畳間2部屋、キッチン、ダイニングリビング。「お風呂もお年寄りのために、特別広くしてもらったんですよ」。

1階と対照的に2階は洋風。主寝室に洋間が2部屋、納戸、書斎という間取りになっている。「こっちは若い人向けにね」という。また、今までは住宅と一緒にあった店も別々にし、ドア1つで行き来できるようにした。

新築して7カ月。住み心地は上々。「毎日いろいろ忙しくて、なかなか家のことに手がまわらなかったけど、これからは、家にあった庭を作っていきたいです」



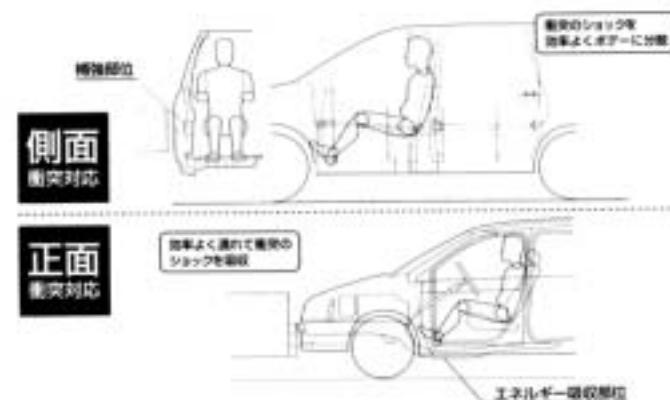
〈トヨタビスタ山梨〉

GOA (ゴア) ってなに?

今回はトヨタビスタ山梨から新発売になったランドクルーザープラド、イプサムに採用されている新衝突安全ボデー“GOA”についてお話しします。

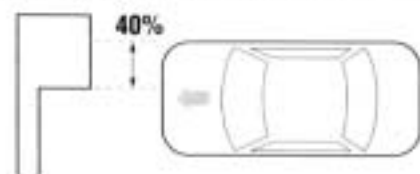
GOA

GOA (Global Outstanding Assessment: 同クラストップレベルの安全性評価) 衝突時の衝撃荷重を吸収すると同時にボデー全体に分散させ、乗員にかかる衝撃荷重を緩和する、世界トップレベルの衝突安全性を確保したボデー構造。安全性試験項目のひとつとして、将来欧米で採用予定の試験速度56Km/hの40%オフセット衝突(※参照)を、60Km/hで実施しています。



※ 40% オフセット衝突

障害壁に真正面からぶつかるのではなく、車両前部の40%が障害壁にぶつかるケース。正面衝突に比べ、車両に与えるダメージは大きいといわれています。



ABS・エアバック

もちろんABS、運転席・助手席エアバッグは全車標準装備。

〈トヨタホーム山梨〉

ご契約は消費税アップの前に

来年1997年4月1日より消費税が5%にアップになります。まだ時間があるように思えますが、家を建てる場合、建築請負契約については、今年1996年10月1日以降に契約した場合は、引渡しが1997年4月1日以降になると消費税が5%になる、という経過措置がとられています。これは、消費税は、物品を譲渡する際に課税するのが原則で、建築した家を引き渡す時点が来年4月1日以降なら、すべて、消費税は5%になります。しかし、6ヶ月以上も前に契約しているケースにまで原則をあてはめるのは適正でないことから1996年9月30日までは経過措置として、消費税課税の原則を免じ、消費税3%というわけです。

契約までには、設計など、詳細を詰める時間が必要です。又、契約してもすぐに引渡せるというものではありませんので、住宅を計画している方は、今がチャンスといえるでしょう。

「よりよい暮らしへのアイデアを提案する」
をモットーに毎日頑張っています



トヨタホーム山梨営業部 昭和住宅公園グループ
左から、花形司 (甲府)、山本正浩 (甲府)、小尾初美 (荏岐)
平川勉 (田舎)、白須大介 (敷島)

〈早野グループのページ〉

失敗を恐れない不屈の精神で 数々の輝かしい実績を残す 今秋 夢だった国体に出場

ひろしま国体にアーチェリーの県代表で出場する

トヨタビスタ山梨株式会社管理部総務課 吉田 賢さん (敷島町) 24歳



「国体に出場するというのは夢でしたからね。本当に嬉しいです」と、笑顔を見せる。全日本レベルで数々の実績を残してきた吉田さんだが、県代表で国体へ出場することには、格別の思いがある。

多くの輝かしい実績

アーチェリーを始めたのは、敷島中学校1年の時。2年後に「かいじ国体」をひかえ、敷島町がアーチェリーの開催地に決まり、町をあげてのアーチェリーブームになった。敷島中でもアーチェリー部を新設。小学生の頃はラグビーをやっていた吉田さんだったが、中学入学と同時にアーチェリー部に入部した。「同級生の女の子にも負けるくらい、へただったんですよ」と当時を振り返り笑う。その後、「よき指導者に恵まれた」という甲府一高、専修大のアーチェリー部で活躍。高2の時にインターハイで優勝、大学3年の時には日本代表で世界選手権大会に出場し、56人中24位と健闘した。

また、アトランタオリンピックの強化指定選手にも認定された。が、輝かしい実績を残しながら、国体は団体で出場するため、何度となく予選で涙をのんできた。「ひろしま国体では、よい成績を修めたい」



大学3年生の時、フランスで開かれた世界選手権大会に出場した吉田さん (左)

仲間と分かち合う勝利の喜び

試合は雷以外だったらどんな天候でも行われ、ほとんど1日ばかりになる。「集中力と忍耐力がものをいいますね。『平常心を保たなければ』と思うのですが、世界選手権などではまわりにオリンピックの金メダリス

トもいて、何ともいえない威圧感を受けるんですよ。逃げだしたくなるくらいのプレッシャーに襲われますが、逃げるのは簡単です。自分の力をどこまで試せるか、ミスを恐れず常に攻めの姿勢で闘っています」。

練習は土・日曜日に、甲府の緑が丘競技場で、午前10時から午後4時くらいまでみっちりする。「一高の後輩達もいるので、教えたり教えられたりしながら楽しくやっています。優勝の喜びや、競技の面白さ、コツなんか分かってから、言葉で表現できないアーチェリーの魅力に取り付かれています (笑)。それに何といっても仲間がいるから楽しいんですよ」。

試合の成績は、仕事や生活が充実していればよいものになる、と吉田さんは言う。「会社の温かい理解があるからこそがんばっていられます。皆さんの応援に応えるためにも精進したい」。一今後の目標は? 「4年後のオリンピックに出場できたら」と、控え目だが力強く語った。

おしゃれ

銀座 山川



営業時間 10:00-19:00
定休日 無休
所在地 甲府市中央4-4-29
TEL0552-33-6245



サービスの「お直し」が評判
洋服と一緒に夢を売る、居心地のいい空間

「30代から上は80代までと、幅広い年齢層の女性がいっぱいいます」と山川さん。ディスプレイされている洋服は、確かに多種多様。親子で訪れても、それぞれがショッピングを楽しめる豊富な品揃えだ。主婦が安心して買うことのできる、手頃な価格も人気のひとつ。「お買い上げの洋服のお直しはサービスです」と話すように、試着して体型に合わない部分があると、ジャストサイズに調整してくれる。「体のラインを少しでもきれいに見せたい」という女性の気持ちを満足させる、細やかな心づかいが嬉しい。「店に置くものを選ぶ時は、素材や縫製・カッティングをしっかりチェックします」。おしゃれなだけでなく、質が良く長持ちする洋服にファンは多い。「ファッションに関してはまだまだ勉強中なんです」と控えめだが、「何度かいらした方なら、どんなタイプの洋服が合うか、どの部分を直したらいいのかがすぐ分かります」とのこと。気軽に相談できるので立ち寄ってみては。

たべる

谷桜



営業時間 8:30-18:00
定休日 日曜・祭日と第二土曜日
所在地 大泉村谷戸2037
TEL0551-38-2008
FAX0551-38-2199



“アマ・カラ・ビン”が決め手
淡雪のような味わいを目指す地酒「谷桜」

創業から150年という歴史をもつ、山梨でも有数の酒蔵。使う水は八ヶ岳の伏流水、澄んだ空気と豊かな自然に恵まれた環境、そして長年培われた技術と、うまい酒を造るための条件をすべて揃えている。「酒らしい酒を造りたい」と話す小宮山社長は、「谷桜」という銘柄を全国に浸透させた張本人でもある。「初めは口当たりが良く甘く感じるのですが、飲んだ後ではんわりとした辛さと香りが残るのが特長です」の言葉通り、いくら飲んでも飽きない味わいはまさに“アマ・カラ・ビン”。水に近い、あっさりとした酒が多い中、飲みやすくしかも飲みごたえのある谷桜の評価は高い。「最近では“酒の肴がつまみ”ではなく、酒が料理の肴になっていますね」。酒を気軽に楽しむ人が増えていることに伴って、週刊誌や雑誌などで紹介されることも多い。が、こうした谷桜ブームにも「今まで通り、品質を落とさないよう着実に造り続けていくことが大切」と一言。味に対するこだわりの証しである。

甲州の野辺にて ⑤

先人の心に還る(3)

「箕輪新町のおんねりと巫女の舞」

国道141号から八ヶ岳に向かって北上し、高根町に入って間もなく箕輪新町という集落に出る。この集落の上木戸というところに、今から170年ほど前に発祥を見たのが「おんねりと巫女舞」という、県指定の無形民俗文化財である。毎年10月1日前後の日曜日を期して土地の産土神である金刀比羅神社(祭神大己貴命・崇徳天皇)の祭礼に舞われる巫女舞であるが、この舞の頭に敢えて「おんねり」という言葉を冠したのは、巫女舞を演ずる前に必ず行わなくてはならないおんねりの儀式が伴っていて、その儀式と巫女舞を切り離して考えることができないからである。

「おんねり」とは「お練り」と呼ぶ祭事の方言化したもので、祭りの当日すでに決められている頭屋で、選ばれた少女(二人)が巫女という神格を得た上で、頭屋から神社まで祭役人の編成する行列に守られて、歩を進める行事であり、その折の頭屋で巫女に変身するための儀式と行列を総称して「おんねり」と名づけられている。

太平洋戦争終結後、かつて日本国中に根強く保持されていた「敬神崇祖」という觀念が崩れて、神と人との関係や、神と人との仲立ちとして存在した巫女への畏敬の念も、すっかり失われてしまったいま、人間の

子どもが巫女に変身するなどということは、信じようもない絵そらごと、と考える人が多い中で、この地区の人たちは今もそれを信じて、何のこだわりもなく、むしろ誇りにさえ思いつながり、毎年この祭りの日を待ちがれている。

何が一体そのようなことをさせているのだろうか、現代的な思考では答えは出せないのだが、この祭りを



金刀比羅神社の巫女の舞

真剣に取り行っている、地域の先輩や神社を取り巻く人びとの祭りに対する素朴な姿勢に触れていると、理屈無しにこの伝統の行事を見離せない、確かな誇りを見ることが出来る。それはいうまでもなく、この祭りを通して人びとの心が、先人の力強さと村落共同体の結束の重要性を意識して、先人の心に還ることができる、好機となるからである。

そうするとこの祭りは単に「お祭

志摩 阿木夫 民俗学研究者
しま あきお

り騒ぎ」ではなく、くらしの中の節目としてたいせつに受け継ぎ、かつ、たいせつに子孫に伝えていかななくてはならない、という心が生まれてくる不思議な力を持っていることが解る。

世の中が物質文化を基調として、いそがしく動き、そしてさまざまな変化をもたらしている現在だが、そのために失われていく精神文化は、現代人にとってその現象は何の抵抗も感じさせないこととして放って置けばいいものなのかと割切っている人びとが多いようだが、それはとんでもない誤りである。

県がこのような民俗芸能を敢えて指定して継承への後押しを真剣に行っていることは、先人の心がいまでも生き続けているものを、消滅させたくないということばかりではなく、かけがえのない民族の誇りに新しい息を吹きかけて、先人の努力を確かめ現代の人びとに、生きることのすばらしさを知ってもらうことでもある。

箕輪新町のおんねりと巫女舞が終ると、この地域では一斉に稲刈りが始まる。巫女の舞がもたらした祈りが、豊かな実りに結びついたことに感謝をこめながら、そのよろこびに人びとの心が躍る好季節を実感させるのである。170年の伝統は決して、軽々しく受け止められない堂々とした歴史の重みを、人びとに語り続けている。

某月某日

ショーウィンドウや街並みもどこか違う
銀座を歩いていると
背伸びせずに包容力と奥行きが備わった気分になる
「銀座を選ぶのでなく銀座に選ばれる人間になりたい」
と願う人は多い

- ・三年に一度の銀座ならではの神輿
- ・稀にみる成熟分野でのヒット商品



×月×日

とっておきのエキサイティング。今年のゴールデンウィークは昔ながらのイベントに参加した。東京・銀座の氏神様、鉄砲洲神社の三年に一度の例大祭である。縁あってこの祭りで神輿を担いでいる。住民の減少とともに担ぎ手も少なくなったこともあって、掛け声も本来の「わっしょい、わっしょい」から様変わりした。木挽町通りに拍子木の音が響き、その音を合図に「セイヤーッ」の掛け声とともに神輿をかつぎ上げた。

八町連合渡御では、喧嘩神輿あり、新橋演舞場や歌舞伎座への練り込みありで、祭り気分はいやおうなしにも盛り上がる。ちょうどハイテンションになった頃に、200人程が担ぐ宮本の神輿が繰り出した。取り巻きはその3倍にも上る。昭和通りを止め、晴海通りをも止めて歌舞伎座へ練り込む。外人さんが、観光客が一斉にカメラのフラッシュを焚く。

皆がこの神輿を担ぎたがるが、宮本の文字の入った半纏を着てなくては、なかなか中へは入って行けない。今回は初めて歌舞伎座の前で、殴られるのを覚悟

して飛びついた。人いさの暑さと、ズッシリと丸太の重みが心地よく伝わってくる。押し潰されそうになりながら、興奮もピークに達する。

そして、粋な楽しみが終わると銀座はいつものステージに。お酒落、華やか、ハイカラ、ネオン、おとなの街、画廊、…etc。人に愛される街に戻る。これもまた銀座ならではのなんだろう。

×月×日

世の中の企業は新製品開発に凌ぎを削っているが、なかなかヒット商品の出にくい分野がある。生活の一部として商品自体が成熟しきっている場合、かえって長い歴史が裏目に出る。つまりビジネス戦線からは取り残されがちになる。

そんな分野に電気照明器具がある。電気が発見され、いわゆる製品となって実用化が図られたのが「照明器具」である。イギリスのデービーが発明したアーク灯以来、すでに190年近くが経つ。社会生活の上でも、「照明のスイッチを切って」と言うところを「電気を消して」と誰もが普通に使うまでに浸透している。

こうした分野では、世の中の素材革命や技術革新なんかはあまり関係ない。新たな製品開発の展開を模索しても、ニーズが伴わず大抵は企画倒れに終わる。そんな照明器具にチョットした異変が起きた。ホームラン商品「消しても明るい蛍光灯」が出た。

この商品、見たところごく普通の蛍光灯ランプ。しかし、10分以上点灯すると、蛍光灯の中に塗ってある超残光蛍光体に電子が蓄えられ、消灯後もそこから放出するエネルギーで、ホタルのような淡い青緑色の微弱な光を発し続ける。時間の経過とともに明るさは落ちるが、位置の目安程度なら8時間残光も可能とか。

不思議なことに、この残光蛍光体自体は特に目新しいものではない。時計の文字盤や道路標識、子供のお菓子の景品にも使われている、ルミネサインとしてお馴染みのそれ。考えれば考えるほど面白い…。待てよ、「お願い、電気を消して」とささやく女性の艶やかな言葉も聞けなくなってしまうのか。何かそれ寂しいなあ。

[文：新海 毅]